

2007～2009年 研究情報

原著論文

1. 鈴木みずえ、水野裕、DawnBrooker、住垣千恵子、坂本涼子、グライナー千恵子、大城一、金森雅夫、Quality of life評価手法としての日本語版認知症ケアマッピング (Dementia Care Mapping: DCM) の討:Well-being and Ill-being Value (WIB値) に関する信頼性・妥当性, 日本老年医学雑誌, 45(1) 68-75, , 2008
2. 上田宜子、青木信雄、認知症ユニットにおけるコンタクトパーソンの有効性 ケアの質向上と人員削減の両立の可能性を目指して, 日本認知症ケア学会誌, 6(1), 29-37, 2007

学会発表

1. 下山久之、佐久間尚実、桑野康一、水野裕、遠藤英俊、認知症高齢者の日常生活における行動類型と生活の質の関連性 DCM法を用いた生活の質の可視化, 認知症ケア学会誌, 6(2), 357, 2007
2. 内田達也、村田康子、田邊薫、稲橋秀樹、認知症ケアマッピング (DCM法) がグループホーム職員の効力感に及ぼす影響, 日本認知症ケア学会誌, 6(2), 199, 2007

総説

1. 村田康子、本人中心の考え方をどう生かすか～パーソン・センタード・ケア, 地域リハビリテーション, 12(12), 1013-1016, 2007